

SFC海外フィールドワーク助成制度Ⅱ

ティースマイヤ、リン（環境情報学部教授）

海外でのフィールドワークを通じて世界に貢献しうる思考力と行動力を併せ持った有為な人材の養成を目的とした学生プログラムを積極的に推奨し経済的な支援を行います。SFCの特徴であるフィールドワークを奨励し学生の研究水準向上を目指します。また自主的なフィールドワークを応援することでグローバルに活躍できる学生の養成を目指します。

テーマ



実施状況



1ヶ月間のフィールドワークを助成することによって特色溢れる研究の実現に貢献できました。フィールドワークを行う際、経済的負担を理由に実施期間の短縮や内容の変更(移動の制限など)を余儀なくされることもありますが、研究助成金を与えることでフィールドワークの長期化、内容の充実を実現できました。また長期に亘るフィールドワークの準備は容易でなく、訪問先の確保や、アポイントメントをとることなど、準備に対しても知恵を絞ることとなり、準備の段階から学生の努力、工夫を求めることとなりました。結果、研究水準は勿論、学生への教育的効果が大いに向上しました。

成果

北米、欧州、アジアをはじめ、イスラエル、コンゴ共和国、チリ共和国、シリアなど10カ国に17名の学生を派遣しました。採用者はフィールドワークを活かし研究を進めており、大学院進学をした者、研究で大学から表彰される者などを排出しております。また得た経験を活かして事業を始める者や学部生向けの教材を完成させる者もあり、学生のアイディアの実現への手助けにもなっております。

テーマの一例

- コンゴ民主共和国キンシャサ郊外における小学校の設計・運営に関する提案事業
- 歴史的城塞都市ハラール・ジュゴルの住民コミュニティ調査（エチオピア）
- 持続可能な開発のためのクリーン開発メカニズム検討～南米チリの事例をとおして～
- アメリカスポーツの社会貢献活動におけるマーケティングの活用事例



展望

2008年度は当プログラムの知名度上昇に伴い倍率が高くなり、採用される研究のレベルが大幅に上昇しました。既に今年度は問い合わせが寄せられており、教員、塾生の期待は高いようです。

2009年度で当プログラムは3年目を迎えます。今年度は昨年度強化した教員の協力体制を更に強固にし、高いビジョンを共有して学生の指導を充実させていきます。

今後も先導者となる学生たちを世界へ送り出していきます。